科目ナンバリング	U-LAS04 10020 OJ47　U-LAS04 10020 OJ46　U-LAS04 10020 OJ45 U-LAS04 10020 OJ17

授業科目名 <英訳>	統合型複合科目（人社群p2）：こころの科学　HP04 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars (Humanities and Social Sciences p2) :Psychological Science HP04	担当者所属 職名・氏名	人と社会の未来研究院 教授　阿部　修士 人と社会の未来研究院 教授　内田　由紀子 人と社会の未来研究院 准教授　上田　祥行 人と社会の未来研究院 准教授　中山　真孝 人と社会の未来研究院 特定教授 中井　隆介 人と社会の未来研究院 助教　上田　竜平 人と社会の未来研究院 特定助教 粉川　尚枝 人と社会の未来研究院 特定助教 早川　小百合 人と社会の未来研究院 特定助教 鈴木　優佳

群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(基礎)	使用言語	日本語

旧群	A群	単位数	4単位	週コマ数	2コマ	授業形態	講義＋演習（対面授業科目）

開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	火4・5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

この授業では、こころを対象とする学問－特に心理学とその関連分野を中心として、基礎的な理論と研究方法を学び、こころと行動を科学的に理解する力を養うことを目的とする。受講者は、心理学の主要分野の概要を幅広く理解し、日常生活や社会的課題に心理学的視点を応用できるようになることを到達目標とする。
本統合型複合科目では、講義において、こころを研究する心理学の全体像と、実験や調査、臨床といった主要な領域について学ぶ。

そして、受講者は4つの少人数演習（A班：実験心理学×脳神経科学×データサイエンス、B班：社会・文化心理学の基礎、C班：臨床心理学からこころを考える、D班：美的体験の定量的・定性的分析）のいずれかに参加することによって、実習や討論を通して講義内容に関連するテーマをより深く探究する。

さらに、4つの少人数演習の担当教員が講義においても話題提供を行うことで、全ての受講生が4つの演習のエッセンスを理解できるようする。
具体的には、第1回の講義では、認知心理学や社会心理学、臨床心理学といった主要な領域を紹介し、「こころを研究する」とはどういうことかについて、基本的な理解を深める。翌週からは4つの少人数演習の担当教員が、それぞれ3回の講義を行い（第2回-第13回）、各演習の内容に関連する主要な知見や理論、方法論等を体系的に学習する。第14回の講義においては、質問を受け付け、まとめを行う。

○統合型複合科目分類【文・文】
主たる課題について文系分野の要素が強く、副たる課題についても文系分野の要素が強いと考えられるもの

統合型複合科目（人社群p2）：こころの科学　HP04(2)へ続く↓↓↓

[到達目標]

心理学における基本的な概念・理論と研究・実証の方法を多角的に理解することで、こころを対象とする学問分野における思考法やスキルを身につけるとともに、日常生活や社会的課題に心理学的視点を応用できるようになることを目指す。

[授業計画と内容]

（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません）

◆講義　火曜4限
教室：共西23
第1回　オリエンテーション：こころの科学とは
第2回　実験心理学の概要（阿部）
第3回　反応や行動指標からこころを調べる（上田祥行）
第4回　脳機能計測でこころを調べる（中井）
第5回　社会心理学基礎（内田・中山）
第6回　心理学調査基礎（中山）
第7回　社会からの視点を考える（ゲストレクチャー：苅谷剛彦）
第8回　臨床心理学とは何か（粉川）
第9回　心理アセスメントと面接（粉川）
第10回　心理療法と臨床実践（鈴木）
第11回　美的体験の心理・神経メカニズム（上田竜平）
第12回　建築・都市のデザインと空間体験（早川）
第13回　美的体験の定量的・定性的分析手法（上田竜平・早川）
第14回　質問の受け付けとまとめ
第15回　フィードバック

◆少人数演習
D班「美的体験の定量的・定性的分析」火曜5限
担当：上田竜平・早川小百合
教室：人と社会の未来研究院 稲盛財団記念館 １階セミナー室(医・薬・病院構内)
履修定員：8名

何かに対し「美しい」と感じる体験は、日常の中で頻繁に生じうる。一方で、「なぜ今、自分はそれに対し美しいと感じたか」という体験の根源については、観察者にとって常に明確であるとは限らない。例えば、モチーフが一見するとわからない抽象絵画や、時には恐ろしいような畏怖の念さえ覚える建築に対しても、我々は美を感じることができる。本演習では、このような美的体験を定量的・定性的に分析する手法を学ぶことを目的とする。第2回から第7回では、実験心理学的手法を用いた定量的分析の手法について学ぶ。美的体験に関する心理実験に参加することから始まり、取得したデータを統計的に分析する作業を実施する。これにより、基礎的な心理実験の設計とデータ解析のスキルを習得することができる。第8回から第13回では、建築論・近代建築史学の観点から定性的分析の手法について学ぶ。実際に空間を体験し、それを対象として評価・分析する手法を学ぶことで、基礎的な空間把握能力と主観的体験の他者への伝達スキル獲得を目指す。一部の内容については講義においても解説を行うことを予定しているが、演習を通して実際に体験することによってより深く学ぶことができる。総括として、分析結果に基づいて受講生間で議論するグループワークを各期に実施し、学術的なコミュニケーションスキルについても身につけることを目指す。

統合型複合科目（人社群p2）：こころの科学　HP04(3)へ続く↓↓↓

第1回　オリエンテーション
第2回-第3回　定量的分析(1)心理実験実習
実際に心理実験に参加し、実験の基礎を体験する。
第4回　定量的分析(2)実験美学・神経美学の基礎
実験内容と関連研究について講師が解説し、それを受けて受講生間でディスカッションを行う。
第5回-第6回　定量的分析(3)データ解析演習
プログラミングを用いてデータの解析を行う（要ノートPC持参。貸し出しも可）
第7回　定量的分析(4)最終発表
得られた結果に基づき、受講生間でディスカッションを行う。
第8回-第9回　定性的分析(1)フィールドワーク・分析1
学内等を探索し、課題に応じた場所を特定したのち記述的解析を行う。
第10回　定性的分析(2)発表
得られた結果に基づき、受講生間でディスカッションを行う。
第11回-第12回　定性的分析(3)フィールドワーク・分析2
異なる課題について、さらに探索と記述的解析を行う。
第13回　定性的分析(4)最終発表
得られた結果に基づき、受講生間でディスカッションを行う。
第14回-第15回　まとめ・フィードバック
美的体験に関する定量的・定性的アプローチの双方を踏まえた、統合的なディスカッションを行う。

[履修要件]

特になし。特別な予備知識は必要とせず、文系・理系を問わず全学部生向けに授業を行う。

[成績評価の方法・観点]

講義と少人数演習をあわせた授業全体の成績は、1：1の割合で、両担当教員が相談して評価する。講義については、14回の授業での平常点（出席と参加の状況）で評価する。少人数演習における各評価項目の割合の詳細は、初回の授業で説明する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
阿部　真人『データ分析に必須の知識・考え方　統計学入門』（ソシム、2021）ISBN:978-4-8026-1319-4
エリック・R・カンデル 著, 高橋洋 訳『なぜ脳はアートがわかるのか -現代美術史から学ぶ脳科学入門-』（青土社、2019）ISBN:978-4-7917-7175-2
三浦佳世, 川畑秀明, 横澤一彦 著『シリーズ統合的認知第5巻 美感：感と知の統合』（勁草書房、2018）ISBN:978-4-326-25112-4
香山　寿夫『建築意匠講義』（東京大学出版会、1996）ISBN:978-4-13-062200-4
エイドリアン・フォーティー 著, 坂牛卓, 邉見浩久 監訳『言葉と建築 : 語彙体系としてのモダニズム』（鹿島出版会、2006）ISBN:978-4-306-04462-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業資料の要点を予習・復習するとともに、データ解析を行う演習の一部では、事前に受講生自身のノートパソコンの設定等が必要になる可能性がある。自身のノートパソコンを所有していない受講生には、授業時間に貸与することを予定している。詳細については授業の中で指示する。

統合型複合科目（人社群p2）：こころの科学　HP04(4)へ続く↓↓↓

統合型複合科目（人社群p2）：こころの科学　HP04(4)

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワーは設けないが、受講生からのメールでの質問は歓迎する。

成績証明書等では、表示文字数の制約上、英文科目名「Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars」が「ISS」と略記されます。

[主要授業科目（学部・学科名）]